

環境研究・環境技術開発の推進戦略の実施方針の 平成 19 年度実施状況等の簡易フォローアップについて

1. フォローアップの目的

環境分野において国が推進すべき研究開発課題や方策が示された「環境研究・環境技術開発の推進戦略について（答申）」（以下「推進戦略」）が平成 18 年 3 月に取りまとめられ、さらに、推進戦略を実効あるものとして実施するため、「環境研究・環境技術開発の推進戦略の実施方針」（以下、「実施方針」という。）が平成 19 年 3 月に策定された。

この実施方針の取組状況を点検し、また、環境に係る国内外の情勢の変化等を踏まえて必要な見直しを行うため、毎年度フォローアップを実施する。

2. フォローアップのポイント

- ・国が推進する研究開発課題（環境分野）については、個別のプロジェクトの成果等を評価するものではなく、重要課題（※）毎に、その取組状況等を俯瞰的に調査するものとする。
（※重要課題とは、推進戦略に定義された課題（別紙参照）とする。）
- ・フォローアップは、中央環境審議会総合政策部会環境研究・技術開発推進戦略専門委員会において行い、具体の作業は委託先検討会において実施する。
- ・フォローアップ結果は実施方針の期間後の新たな方向性等の検討に資するものとする。また、フォローアップ調査結果は、翌年度以降の施策検討の際に活用する。

3. 全体スケジュール

実施方針は平成 18 年度から平成 22 年度までの 5 年間を対象とし、フォローアップは毎年度行うこととされている。このフォローアップを効率的・効果的に行うため、各年度に行う調査の内容やスケジュールを以下のように定めている。

表 1 各年度での主な実施事項（ は今年度の作業）

年度	主な実施事項
18	<ul style="list-style-type: none"> ・実施方針の策定 ・フォローアップ手法の検討、フォローアップ（簡易調査）の試行
19	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 18 年度の簡易調査の実施（継続的な情報収集）
20	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 19 年度までの簡易調査の実施（継続的な情報収集）
21	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 20 年度までの中間調査の実施 →目標達成状況の中間レビュー、新たな方向性の検討等
22	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年度までの簡易調査の実施（継続的な情報収集）

	→新たな推進方策の検討、策定
23	・平成22年度までの最終（総括）調査の実施（実施方針の達成状況の総括） →新たな推進方策の一部改正

4. 調査の概要

フォローアップの実施は平成23年度までの5カ年とし、簡易、中間、最終（総括）の3段階で実施する。各調査の目的と内容を表2に示す。また、各調査項目について、その観点を表3に示す。

表2 フォローアップにおける調査の種類と内容（ は今年度の作業）

	目的	調査項目	実施時期
簡易調査	実施方針の円滑な実施のため、社会的状況変化の把握や資源配分状況を継続的にモニターする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的状況の把握 ・ 資源配分の状況 ・ 横断的事項への対応状況 	原則毎年 ただし、中間、最終（総括）調査実施年を除く
中間調査	5カ年のフォローアップの実施期間の中間点において、目標到達度などをレビューし、実施方針の期間後の新たな方向性の検討に資する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的状況の把握 ・ 資源配分の状況 ・ 横断的事項への対応状況 ・ 実施方針の目標に向けた取組状況 	平成21年度 （5カ年の中間地点）
最終（総括）調査	5カ年のフォローアップの実施期間の最終段階として、実施方針の期間全体の目標達成状況などを総括的に評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的状況の把握 ・ 資源配分の状況 ・ 横断的事項への対応状況 ・ 実施方針全体の達成状況 	平成23年度 （実施方針の期間終了後）

表3 フォローアップにおける調査項目と主な観点

調査項目	観点	簡易調査	中間調査	最終調査
1. 社会的状況の把握	・重要課題の見直し等を必要とするような、環境に係る国内外の情勢の変化や環境の状況（社会的状況）が見られるか。	○	○	○
2. 資源配分の状況	・各分野の重要課題毎の資源配分の状況はどうか。 ・重要課題毎に重要な研究開発課題、技術がもれなくカバーされているか。 ・今後、拡大・縮小すべき課題や分野はないか。	◎	○	○
3. 横断的事項への対応状況	・横断的事項の取組状況は、実施方針に沿って進められているか。	○	○	○
4. 目標に向けた取組状況	・実施方針に盛り込まれた目標に向けた取組状況はどうか。 ・個別の重要課題の中で、順調に進捗しているもの、進捗が遅れているものはどれか。 ・進捗がおくれているものについて、取組を加速するにはどうすれば良いか。		◎	
5. 実施方針全体の達成状況	・実施方針に照らし、各領域で全体として所期の目標を達成できたか。 ・各分野の重要課題それぞれについて、目標を達成した課題、達成できなかった課題とその理由は何か。 ・投入された資源に照らして達成状況は適当であったか。			◎

5. 簡易フォローアップ手法

平成19年度の簡易フォローアップでは、昨年度と同様に最初に環境研究・技術開発分野における事業実施状況の一覧を整理し、次にこれら事業の実施状況を俯瞰的に整理した上で、実施方針の目標等に照らして、適切な実施状況になっているかどうかを精査する。

具体的な手順のフローは図1のとおり。

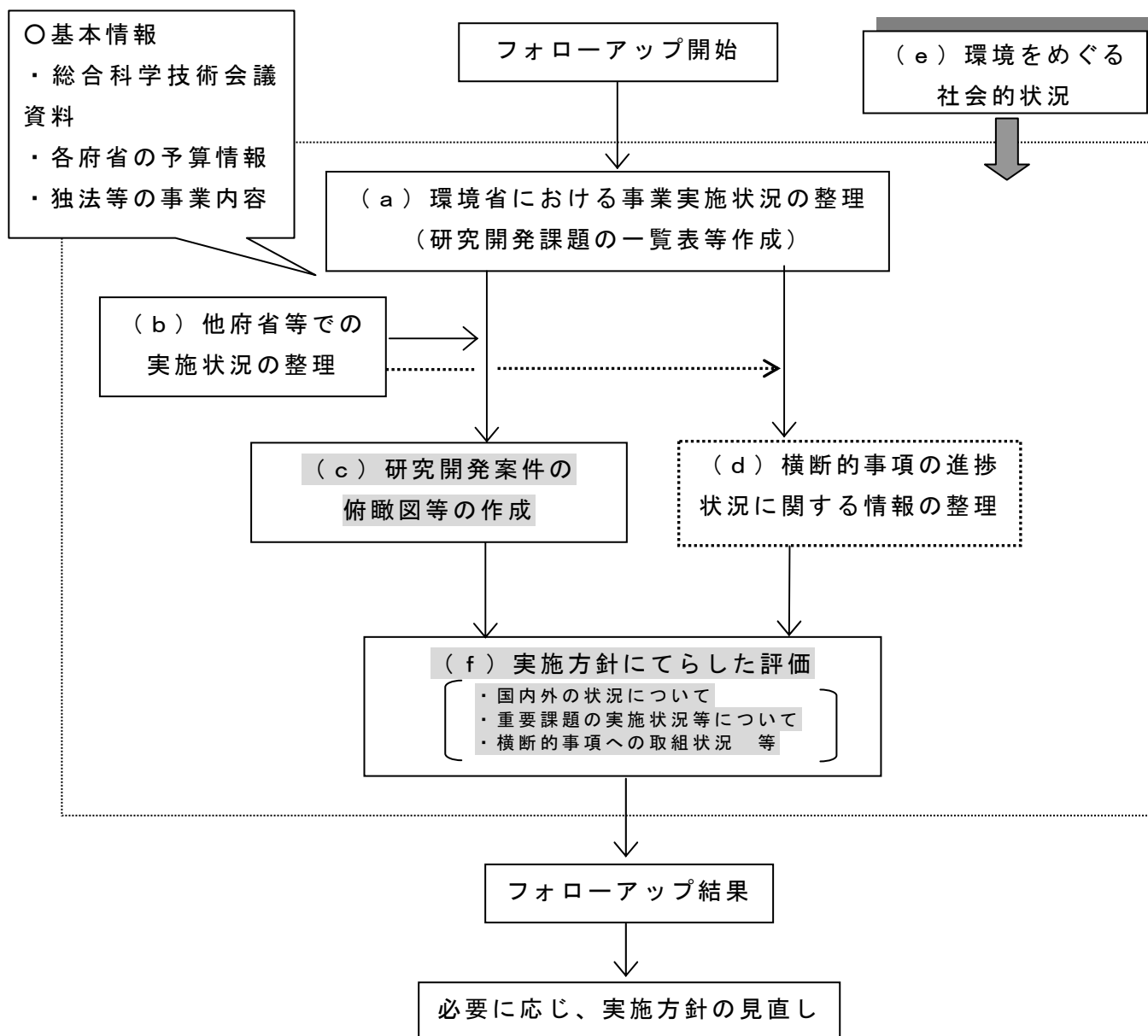


図1 フォローアップ作業のフロー
(が各WGでの作業)

(1) 研究開発課題一覧表の追加【事務局作業】

a. 環境省における事業実施状況の整理（研究開発課題の一覧表作成）

実施方針の「2. 重点的に推進すべき領域毎の実施方針」の各領域に、重要課題毎に掲げられている施策及びプロジェクトについて、実施状況を調査し、一覧として整理・追加する。

b. 他府省等での実施状況の整理

他府省が実施している研究開発制度における実施課題（現在、実施中のもの）について、重要課題毎に研究内容を調査・追加する。

(2) 研究開発案件の俯瞰図等の作成（c）【WG検討】

(1)の結果をもとに、実施方針の重点分野毎に研究開発の実施状況等を示す俯瞰図を作成し、評価の参考資料とする。

マッピングに際してはマップA（従前の研究開発フェーズを横軸とするもの）、マップB（推進戦略の重要課題を横軸とするもの）の2つを作成する。

(3) 横断的事項の進捗状況に関する情報の整理【事務局作業】

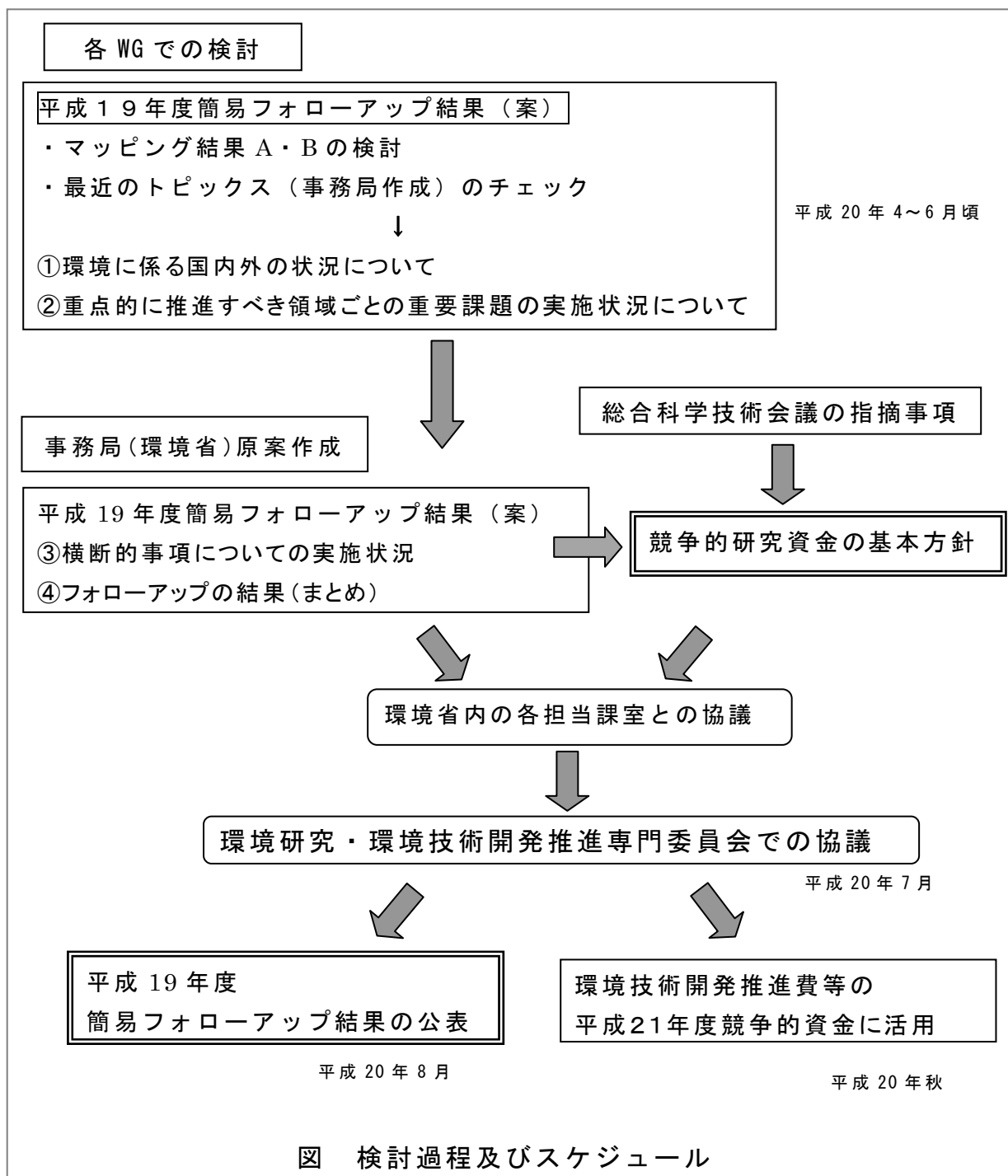
実施方針の「3. 横断的事項に関する実施方針」の各項目について、環境省における実施状況を調査・把握するとともに、他府省・研究開発独立行政法人等における同趣旨の取組みについても把握する。

(4) 環境をめぐる社会的状況の変化【事務局作業】

平成19年度以降の、環境に係る国内外の情勢の変化や環境の状況について、情報を収集し、整理する。

6. 簡易フォローアップ検討に係るスケジュールについて

本日までの検討経緯と今後の結果公表に向けたおよそのスケジュールは以下のとおり。



「環境研究・技術開発の推進戦略について（答申）」における重要課題

(脱温暖化社会構築領域)

- ・総合的な温室効果ガスモニタリング体制の確立【重点投資】
- ・アジア太平洋地域の気候変動影響モニタリング・評価ネットワークの確立【重点投資】
- ・気候モデル、気候変動予測の高精度化と気候変動のリスクの管理手法、適応策の検討。【重点投資】
- ・脱温暖化社会のデザイン研究・政策評価モデルの研究【重点投資】
- ・再生可能エネルギー導入技術の開発・再生可能エネルギーの導入のための技術開発、制度研究【重点投資】
- ・水素・燃料電池など新しい社会システムの技術開発・導入
- ・CDM・技術移転をつうじたアジアの低CO₂排出化の実施方策の研究
- ・技術開発・改良、技術導入・普及拡大、関連インフラ整備、社会システムの研究
- ・省エネ、カスケード利用技術・システムの開発・導入
- ・炭素の固定・貯留、森林等吸収源増大技術の開発・導入
- ・新たな対策技術導入のための社会システム研究、経済的手法の研究
- ・含ハロゲン物質等温室効果ガス削減対策技術の開発、導入、評価研究

(循環型社会の構築領域)

- ・3R技術・社会システムによるアジア地域における廃棄物適正管理システムの研究【重点投資】
- ・循環型社会への変革を進めるための経済的手法等の政策・手法の研究【重点投資】
- ・循環資源に関するリサイクル技術やシステムの高度化・実用化【重点投資】
- ・有害性の観点を含めた再生品、再生利用品の規格化・基準化のための研究【重点投資】
- ・最終処分場の適切な跡地管理と活用に関する研究・技術【重点投資】
- ・LCAを踏まえた循環度の評価手法の確立
- ・LCA評価に基づく容器包装の再商品化手法の評価
- ・3Rを一体化させた設計・生産技術の開発・普及
- ・最終処分場のひっ迫と不適正処理・処分解消のための技術開発
- ・不法投棄等による汚染地の原状回復技術の開発・高度化
- ・有害廃棄物に関する安全安心確保技術の高度化
- ・地域における最適な資源循環システムの開発・評価

(自然共生型社会の構築領域)

- ・ アジア地域の大气環境管理に資する知見の集積と技術の開発【重点投資】
- ・ 全国レベル・アジア地域レベルの生態系観測ネットワークの構築及び生態系観測技術の高度化【重点投資】
- ・ 生態系機能の変化予測手法の高度化【重点投資】
- ・ 自然共生型都市・流域圏、健全な水循環を実現するための管理手法の開発【重点投資】
- ・ 広域・越境大気汚染のモニタリング体制の整備と継続的モニタリング
- ・ 生物多様性データベースの統合化技術の開発
- ・ 生物多様性・生態系等の変動モデル構築
- ・ 必須物質（C，N，P，S）等の循環動態の解明と生物多様性・生態系への影響評価の研究
- ・ 水・物質循環に関するモニタリング・評価手法・モデリングの高度化
- ・ 自然共生化技術の統合化・システム化
- ・ 自然共生型社会形成のための対策技術、社会シナリオ評価に関する研究

(安全・安心で質の高い社会の構築領域)

- ・ 簡易迅速な化学物質安全性評価手法の開発【重点投資】
- ・ 評価手法が未確立の健康影響等の評価手法の開発【重点投資】
- ・ 水域・陸域生態系のリスク評価手法の開発・高度化【重点投資】
- ・ 製品の全ライフサイクルを通じた化学物質環境リスク低減手法の確立【重点投資】
- ・ 主要化学物質の有害性・暴露・リスク情報等のデータベース化【重点投資】
- ・ 緊急対応に必要な安全安心確保技術の基盤強化
- ・ 環境計測・分析技術の高速化、高機能化、実用化と普及
- ・ 環境試料の長期保存方法の技術的検討
- ・ 東アジア地域における環境中化学物質のモニタリング・モデル予測
- ・ 広域・高精度の大気汚染物質暴露モデルの開発
- ・ 人や動植物への暴露を生じる各過程に応じた暴露量推計手法の整備
- ・ オゾン層破壊及び健康リスク評価に関する研究
- ・ ナノ粒子やナノ材料等の新たな又は同定できていないリスクへの対応とその評価手法開発
- ・ B A T / B E P の考え方を踏まえた有害処理技術の開発・普及
- ・ グローバルな観点からの P O P s ・有害な重金属等の管理・環境排出抑制策の技術的検討
- ・ リスクコミュニケーション手法の普及、リスクの社会的受容に関する研究